（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和６年度 学校自己評価システムシート（県立川越総合高等学校）

目指す学校像	多様な学習ニーズに応える学校　～農・食・生活・環境の特性を活かす総合学科～

重点目標	
	１　学びの基盤となる力を育み、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。 ２　基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、自ら人生を切り拓いていける勇気と実行力を身に付けさせる。 ３　自己理解と探究学習を充実させ、夢の実現につながる進路決定をさせる。 ４　地域と連携した学習活動を推進し、新たな価値を創造する力を身に付けさせる。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者		
	学校関係者	４名
	生徒	１１名
	事務局(教職員)	１０名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（２月１日 現在）			実施日　令和７年２月６日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 生徒の授業満足度は80.2%(R5)と高水準を維持している。検定の取得率も良く、農業技術検定では37名(R5)が合格するなど授業改善の成果が出ている。 【課題】 ICTを活用した協働的な授業改善を進めたり、専門資格取得の継続指導をしたりして自学の習慣を定着させる。	基礎学力の定着と主体的学習態度の育成を目指した授業改善及び授業力向上。	①教務部を中心に６月と１１月に、主体的学習態度の育成の工夫に主眼を置いた授業公開・授業観察等を実施する。 ②各教科、農務部を中心に資格取得の推奨と指導の充実を図る。	①教員間で授業研究（授業見学や授業に関する意見交換）を行ったか。 ②専門資格等の受験者と合格者数の向上	①２回の授業公開を実施。積極的に授業観察を行った。年次研修者を中心に教員相互の意見交換を行った。 ②技能国家資格（園芸、フラワー）３級８名、日本農業技術検定(前期)２級１名、３級11名が合格した。	B	①授業公開や授業観察を継続し、授業力向上を図ったりICTを活用した授業改善の推進を図る。 ②生徒への資格情報の周知徹底や、各種取組について学校HP等でも積極的に発信していく必要がある。	・令和５年度の数値をもとに令和６年度の目標や評価を設定しているのか教えてもらいたい。 →達成状況を総合的にみている。 ・農業技術検定は何名合格しているか。 →合計１２名。今年度は昨年度に比べ、受験希望者が少なかった。 ・評価項目の達成状況から判断して、Bではなく、A評価に値するのではないか。再検討願えれば幸いである。 →農業技術検定が、令和５年度と同等か上回ったらAとする。 ・クロムブックの使用頻度が少ないので、使用方法を工夫して授業を行い、欠席者等（公欠）に対しての不安の解消につなげてもらいたい。 ・使用アプリに関して、必要に応じて使用する端末も見直してよいと思う。
		個別最適な学び・協働的な学びの改善。	①１、２学年が、２学期までにシラバスを活用した科目選択の充実を図る。 ②授業に関する調査（アンケート）を実施し、授業改善に活かす。	①シラバスを有効活用した科目選択の満足度をもって分析する。(アンケート) ②ICTを活用した授業満足度をもって分析する。（アンケート）	①体系的に科目選択説明会をシラバスを活用し実施した。シラバスの満足度91.6%。 ②DX加速化推進事業においてICT整備を進めることが出来た。学校設備の活用満足度89.8%。	A	①シラバスのＰＤＦ化を今後も継続し、生徒保護者への周知を図る。 ②継続してＤＸを図り、多くの選択授業の中でも、ICTの活用を進め、指導を工夫する。	
2	【現状】 教育環境は充実している。学校生活満足度(R5)は、生徒92.3%、保護者94.9%であった。生徒の自主自律を育む生徒会活動を実施している。 【課題】 生徒支援の充実度(R5)は生徒84.9%保護者67.9%であった。保護者への情報提供を充実させたり、学年や教育相談委員会等との連携を深めたりしていく。	健全な心身の育成と組織的な生徒指導による社会性の向上。	①教育相談委員会、生徒指導部、学年の情報共有を進め生徒に寄り添った教育相談を実施。（通年） ②基本的生活習慣を確立させるため学年、生徒指導部の有機的な連携による組織的な指導の実施（通年）	①教育相談的な視点における生徒保護者の満足度をもって分析する。（アンケート） ②生徒・保護者の学校生活満足度をもって分析する。（アンケート）	①SC延べ46回、SSW延べ1回活用した。教育相談に係る生徒満足度86.8%　保護者満足72.3度%。 ②遅刻が10回以上の生徒には生徒指導部の面談を実施し生活リズムの改善を促した。生徒満足度94.4%保護者満足度89.2%。	A	①各学年の特別支援教育コーディネーターと教育相談委員会の連携を深め、生徒一人一人の身体的、精神的健康の増進に寄与できる体制を整備していく。 ②保護者への適切な説明を充実させ、生徒が安心して過ごせる環境を整備し生活習慣の確立と規律の徹底を推進していく。	・勉強力やモラル等の教師力をつけてもらうことが重要である。そうすれば、生徒も学校が楽しくなり、教員も力をつけられ、学校がよくなる。 ・教員がリードしてどこまで導くか。誘導する力をつけ、生徒から認められる教員になることが大切である。 ・先生の力は大きい。人生が変わった生徒もいることを認識してもらいたい。 ・一人一人が安心できるような居場所をつくってもらいたい。休める場所や勉学等に向き合える場所を学校が提供できると良い。そこから将来を考えられるようになる。 ・整容基準をわかりやすくしてもらいたい。
		生徒の自主・自立心の向上。	①生徒会とＦＦＪが中心となり計画的な話し合いの場を設定し、学校運営に意見を反映する。（通年） ②農務部が関係活動の指導を行う。（通年）	①関係生徒会行事を計画的に実施し、学校評価懇話会において生徒の意見・要望・評価等を記載する。 ②ＦＦＪの各種活動参加者数の向上。（対R5比）	①顧問間での会議及び生徒間での定例会が密に行われ、計画的な行事の運営ができた。生徒等の関係者の意見も学校運営上検討できている。 ②概ね例年通りの参加者であった。	B	①継続して生徒主体の活動・活躍を支援し、生徒教師間の指導連携を強化していく。 ②農業科目履習生徒への計画的な活動内容の周知とFFJ活動の組織化を図る。	
3	【現状】 探究学習や実験実習を伴う体験的学習では、授業の満足度(R5)は、生徒91.2%保護者87.3%である。生徒は総合学科の特性を活かし、多様な進路を実現させている。 【課題】 農業学習やボランティアなどの地域連携を継続し、教科横断的な活動の充実と進路実現への意識を向上させる。	特色ある教育活動並びに進路分野別指導体制の充実による進路意識の向上。	①1学年「産業社会と人間」2,3学年「探究活動」の授業を通した自己理解のための授業改善する。 ②農務部を中心とした体験的教育活動の継続。 ③専門資格等取得表彰制度担当や図書館機能を活用し、検定試験や資格取得を奨励する。	①探究活動における生徒・教員の満足度をもって分析する。（アンケート） ②体験的教育に係る生徒の満足度をもって分析する。（アンケート） ③各種資格検定取得者数の向上。（対R5比）	①②探究活動並びに体験活動を含む主体的、対話的な生徒授業満足度87%、教員満足度85.7%。進路指導に係る生徒満足度90.95%、保護者満足度78.3%である。 ③専門資格等取得表彰では、前期8名、後期5名、計13名(R5：10名)であった。また、各授業でも積極的に図書館機能を活用した。	A	①②継続して学年と進路指導部が協力して系統的な進路指導を図る。総合的な探求の時間検討委員会(R6:5回開催)で設計した14分野で次年度以降も総合的な探求の時間を深化させていく。 ③資格検定取得の奨励を各教科で推進していく。	・生徒満足度と保護者満足度の差があるが、開きをどう見ているか。 →アンケートを取った時期や進路指導に対する評価と進路結果（進学先、就職先）の評価、見方によっても違ってくるかもしれない。 ・「学ぶ」とは、この程度でいいとは違う。教師生徒相互に学びの質を引き上げてもらいたい。大事なのは各々自身への問いかけや決めつけないことである。 ・進路では、自分のしたいことが行えて選択が広がっている。遠足でオープンキャンパスに行ってもよいのではないか。 ・若いうちはいろいろやっておくことが大切。健康も大事。チャレンジすることの大切さを感じている。 ・総合探求を活用すると良い。川越総合の強み、他にはないことを少しでもうまく活用することが大切だと思う。
4	【現状】 県事業を活用した地域振興プロジェクトが地域から評価されている。HPによる情報発信の満足度(R5)も高い。生徒81.6%、保護者75.9%。 【課題】 地域の物的・人的資源を活用した特色ある教育を充実させる。 保護者とのデジタル連絡ツールの有効活用を図る。	地域に根差した特色ある教育活動の推進及び学校理解の改善。	①農務部や各学年を中心に、ボランティア活動や地域連携による商品開発の実践など行い体験的な教育機会を提供する。（通年） ②広報部を中心に学校説明会等に生徒が積極的に参加し、様子を直に中学生や保護者に伝たり、母校訪問を実施したりする様子をHP更新する。(6月～1月)	①地域と協力・連携した活動や特色ある活動報告（各種県指定事業等含む） ②ホームページによる情報発信数の向上（対R5比）	①産業教育フェアや川越市農業ふれあいセンターまつり等で農産物販売を行ったり、野菜の新温室、飼育の新鶏舎を元に、商品開発を含めた地域連携や地域の特産品づくりを行った。また、川越市の人権の花運動や川越市緑化ボランティアに参加し、地域貢献を行った。 ②中学生向けには、農業関連のみならず、一般教科などの授業の様子なども掲載し、学校日誌を56件更新し(R5：29件)情報発信を活性化した。	A	①関連する選択授業の中でも取り組めるように指導を工夫したり、各種報告会や発表会等にも参加したりするなど指導体制を整える。 ②中学生やその関係者が、本校に興味を持ち、かつ、新しい情報を得られる場となるよう、次年度も日々の出来事をこまめにアップし、新鮮な情報の発信に努める。	・地域連携活動については、卒業生、ＯＢの力が大きい。今後も継続してもらいたい。 ・毎年行っている「落ち葉掃きボランティア」も学校自己評価シートに記載してもらいたい。